

1. 教育目標

様々な難病の病態モデルあるいは稀な病気の病態モデルを、遺伝子改変技術やその他の方法で作製し、疾患の発症機序を科学的に解明し、その治療法と予防技術を確立することで社会に貢献する。さらに、作製したモデルマウスを多くの研究者に提供することで、医学の発展に貢献する。本研究領域は、病態モデルの作製とその発症機序を科学的に解明し、その治療法と予防技術を追求する研究医および研究者となることを目標とする。

2. 到達目標

- (1) 様々な実験手技（細胞培養、フローサイトメトリー、遺伝子解析など）を修得する。
- (2) 独創的な実験計画を構築することができる。
- (3) 実験結果を正確かつ倫理的にまとめることができる。
- (4) 遺伝子改変マウスを作製できる。
- (5) アレルギー疾患モデルマウスを作製し、発症機序を解析することができる。
- (6) 子宮内膜症モデルマウスを作製し、発症機序を解析することができる。
- (7) 様々な免疫難病のモデルマウスを作製し、発症機序を解析することができる。
- (8) 病態モデルマウスを用いてその治療技術を樹立できる。

3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

- (1) 研究ノートを定期的に確認し、研究の進行状況を評価する。（70%）
- (2) 毎週行うリサーチカンファレンスで研究の進行状況を他の研究者に論理的に説明できるかを評価する。（20%）
- (3) 大学院講義後のレポートを確認し、講義内容の理解度を評価する。（10%）

4. 教科書・参考書

- (1) Cellular and Molecular Immunology, 9th Edition by Abul K. Abbas
- (2) Janeway's Immunobiology, 9th Edition by Kenneth M. Murphy
- (3) 必要に応じて参考資料等を配布する。

5. 準備学習

- (1) 授業前には各講義内容（実験方法とその原理）を十分に予習すること。（1時間以上）
- (2) 授業後には各講義内容（特に実験法）は各自の実験ノートにまとめること。（1時間程度）

6. 備考

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

